

東京外国語大学 2013年度秋学期 金曜日 5 限目

教員名：Hermann Gottschewski

連絡先：gottschewski@fusehime.c.u-tokyo.ac.jp

科目名：総合文化研究入門A

テーマ：西洋音楽の文化史—ドイツの音楽を中心に

授業用のホームページ（これから授業関係の史料をそこにアップします）

<http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/~Gottschewski/gaidai/2013/index.htm>

注：このアドレスを入力する時に大文字と小文字を区別する必要があります。

「~」の入力が難しい場合、以下の順序でも授業のページに入れます。

<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/gottschewski/>にアクセス

（このページはgoogleで「ゴチェフスキ」を検索してもすぐ見つかります。）

→一番上の「授業」をクリック

→2013年度担当講義 **冬学期**の一番下の東京外国語大学の授業の右にある「授業のページへ」をクリック。

## 授業の目的

この授業の目標は「音楽は文化の現象であり、歴史の中で解釈しなければならない」という説のもとで音楽・作品・演奏・受容に対しての問題意識を育てることである。西洋音楽、とりわけドイツの音楽を中心に講義を進めて行こうと考えている。ここで「ドイツの音楽」というのは必ずしも「ドイツ文化の中の音楽」に限るものではなく、ドイツに起源を持ち、ドイツ以外の地域で受容された音楽も含むものとして解釈していただきたい。西洋音楽文化史の中で、そして近代のアジアの西洋音楽受容史の中で、ドイツ音楽がどのような位置を占めてきたか、という問題もこの授業の一つの焦点となる。

## 授業の概要

前半では西洋音楽史（ドイツを中心に）を時代毎に、その時代の社会的・文化的な発展と結びつけながら代表的な音楽のジャンルを紹介し、時間が許す限り代表的な作品（またはその一部）を聴かせる。後半は「ドイツにおける外国音楽の受容」、「声楽作品の翻訳」、「世界に影響を及ぼしたドイツの音楽教育」というテーマで、ドイツ音楽やドイツ音楽文化が世界に持つ意義を論ずる。

## ・ スケジュール

- 注：スケジュールで「休講」となっている2回分は、12月～1月中のどこかの金曜6限の時間に補講を行う予定です。それによって後半では日にちとテーマが多少ずれることがあります。
- **2013年10月4日**
  - ガイダンス
- **2013年10月11日**
  - 17世紀以前の音楽（記譜法の発展を中心に）
- **2013年10月18日**
  - J.S.バッハとその時代（教会音楽を中心に）

- **2013年10月25日 休講**
- **2013年11月1日**
  - 18世紀後半の音楽（演奏会文化の発展を中心に）
- **2013年11月8日 休講**
- **2013年11月15日**
  - L.v.ベートーフェンと19世紀前半の音楽（作曲家論を中心に）
- **2013年11月29日**
  - R.ヴァーグナーとその時代（「総合芸術」と「絶対音楽」の概念を中心に）
- **2013年12月6日**
  - 19世紀末・20世紀初頭の音楽（調性の危機を中心に）
- **2013年12月13日**
  - 第一次世界大戦以後現在までの音楽文化の発展（メディアとの関係を中心に）
- **2013年12月20日**
  - 外国で活躍したドイツ人・ドイツで活躍した外国人音楽家
- **2013年12月の補講（日にち未定）**
  - 国境を超える音楽の流行
- **2014年1月10日**
  - 外国語の声楽作品のドイツ語化（17世紀・18世紀のイタリア音楽の影響を中心に）
- **2014年1月24日**
  - ドイツ語の声楽作品の外国語化（日本の歌曲の発展を中心に）
- **2014年1月31日**
  - ドイツの学校における音楽教育の発展（19世紀のプロイセンを中心に）
- **2013年1月の補講（日にち未定）**
  - アメリカ・アジアにおけるドイツ音楽教育の受容
- **2014年2月7日**
  - まとめ
- **2014年2月14日**
  - 試験